

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 岐阜関ヶ原古戦場記念館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 岐阜関ヶ原古戦場記念館 学芸係

電話番号：0584-47-6070

E-mail：c23116@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 90,327千円（前年度予算額：69,808千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	県 債	一 般 財 源
前年度	69,808	0	0	63,244	0	0	0	6,564
要求額	90,327	0	0	81,079	0	0	0	9,248
決定額	72,876	0	0	62,923	0	0	0	9,953

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

2020年10月に関ヶ原町に岐阜関ヶ原古戦場記念館を開館した。

記念館では、関ヶ原の戦いに関する理解の増進を目的に関ヶ原の戦いに関する資料の収集や保管、展示及び調査研究を行うため、資料の燻蒸や研磨や展示関連機器のメンテナンスにより常時資料と展示環境を最適な状態に維持する必要がある。また、常設展示に加え、全国の博物館等と連携、資料等を借用し展示する「企画展」を実施し、話題性の高い展示を展開し、更なる集客を図る必要がある。

(2) 事業内容

- ①展示史料および展示機器の維持管理・保守
 - ・ I P Mに基づく文化財の清掃（業務委託）
 - ・ 新規収集資料の燻蒸（業務委託）
 - ・ 各種展示機器の保守管理（業務委託）
- ②企画展開催
 - ・ 他館との連絡調整経費

- ・他館からの収蔵品借上料、資料の運搬、美術保険料
- ・企画展広報

(3) 県負担・補助率の考え方

2015年3月に策定した「関ヶ原古戦場グランドデザイン」に基づき、県が実施する事業であるため、県負担が妥当。

(4) 類似事業の有無

岐阜県美術館、岐阜県博物館及び岐阜県現代陶芸美術館における企画展

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	420	資料収集委員謝礼
旅費	1,681	資料借用打合せ、資料運搬同行
需用費	22,000	展示用消耗品、企画展ポスター等印刷、資料破損修繕
委託料	37,826	資料燻蒸、資料運搬、映像等設備保守
役務費	2,000	美術品保険料（館蔵品・企画展借用資料）
使用料	5,000	資料賃借料
備品購入費	21,400	展示用備品
合計	90,327	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

Ⅱの3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2)次世代を見据えた産業の振興

④観光産業の基幹産業化

岐阜県観光振興プラン

(4) 事業主体及びその妥当性

県が管理運営する施設での事業であるため県執行が妥当。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・古戦場の整備を通じ、関ヶ原古戦場の更なる魅力を創出し、観光客数の増加を図るとともに、関ヶ原古戦場を核とした周辺地域の周遊観光を振興する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
				(前々年度末時点)		
観光消費額	億円 (H -)	2,819億円 (H29)	2,822億円 (H30)	2,933億円 (R1) ※	3,300億円 (R7)	88.9 %
観光入込客数（実数）	万人 (H -)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,800万人 (R1) ※	4,900万人 (R7)	98.0 %
外国人延べ宿泊者数	万人 (H -)	98万人 (H29)	148万人 (H30)	166万人 (R1)	180万人 (R7)	92.2 %

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

（前年度の成果）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価)	<p>○</p> <p>記念館は開館のみが目的ではなく、いかに運営していくかが重要であり、そのためにも有効な手段を用いて来館者数の増加に努める必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>実物、複製を問わず常に資料と展示環境を最適な状態に維持する必要がある。</p> <p>企画展については、話題性の高い資料ほど借上料や保険料等の経費を要し、また受入側の展示環境の高度な展示環境、管理体制が求められる。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>記念館の資料と展示環境を最適な状態に維持することは、よりよい資料の調達や借受けという点から企画展の運営においても重要であり、継続的に取り組む必要がある。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】